2015年度　前期　　リフレクションペーパー

学科名	建築・デザイン学科				
科目名	住まいの計画				
科目区分	専門科目	単位数	2単位	開講時期	2年次前期
必修・選択の別	選択必修科目（建築工学コース）／選択必修科目（建築コース）／選択科目（デザインコース）				
担当者	益田　信也				
授業の到達目標（シラバスから）	・様々な住宅タイプを学んで、住まいのあり方は多様であることを理解できる（A6、B4） ・住宅タイプそれぞれの成立背景を知ることで、広い視野で住まいを観る力を得る（A6、B4） ・同時に、今後の住まいのあるべき姿を考え、構想する力と問題意識を身につける（A6、B4）				
日程と内容	4/10　導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価の方法／住まいの変化の要因 4/17　農村住宅：住まいと集落景観、屋敷の構成と機能、住宅と生産活動、住宅の社会性 4/24　町家：高密度居住のしくみ、生業と家族生活、町なみの形成と変容、町なみの保存 5/1　長屋・アパート：密集する下町の住まい、住まいの開放性、同居と近居、定住と流動 5/8　中廊下型住宅：伝統的な住様式、家族本位の近代化と封建制、住宅改良運動 5/15　作家住宅：建築家と住宅設計、新しい生活像の提案、作品例の分析・考察 5/22　都市型住宅：商品化住宅、伝統とモダンリビング、公私室型住宅とＬＤＫ構成 5/29　地方の住まい：地方の戸建住宅、都市型住宅との比較、続き間座敷の機能と意味 6/5　漁村住宅：高密度居住と路地空間、間取りの継承と変容、ムラづくりのシステム 6/12　集合住宅（１）：集合住宅の系譜、住戸の近代化と定型化、多様化・変化への対応 6/19　集合住宅（２）：定型化した団地の風景と設計基準、高密化と住戸の閉鎖化 6/26　コーポラティブ住宅：居住者参加の集合住宅、住まいの管理 7/3　これからの都市居住（１）：多様な家族像と居住サービス、高齢者住宅 7/10　これからの都市居住（２）：協同居住、まちづくり 7/17　これまでの授業の総括、定期試験に向けた総合演習と解説 7/24　定期試験				
成績評価基準	定期試験 60%　実技 0% 臨時試験 0%　部外評価 0% 報告書・レポート 10%　プレゼンテーション 0% 課題 0% 演習 30%　計 100%				
授業到達目標の達成度	今年度は定期試験の受験生の86%が合格となり、昨年の88%より少し減少した。合格者の平均点は75.6点で、昨年の73.1点より若干上がっている。一昨年、昨年と比べて、定期試験の成績が今年度は平均点75.0点と演習・レポートの得点より少し向上しており、授業内容の理解度は進んだのではないかと判断している。概ね目標は達成できたと考えている。				
反省点	1限目に開講される時間割だが欠席・遅刻は少なく出席率は良好であったが、出席しても居眠りをしたり内職・スマホいじりをしている学生が多い。 レポートの採点結果を定期試験の前に報告したことは、試験に向けて意気消沈、あきらめ感を生んだのかもしれない。最終的に、定期試験を受験しない学生が20名になってしまった。				
来年度の計画	ケータイ・スマホを禁止し、居眠りをしないように手を動かす授業とする。 ノート作成を義務づけて、試験時に活用できるなどの動機付けを行い、自学自習をより積極的なものとする工夫をする。				
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価は8.1点（昨年度8.2点）と少し下降したが、ほとんどの項目で全科目平均値を上回ることはできた。ただし、自学自習については平均値を下回っており、この取り組みの習慣をいかに形成するかが課題である。				

履修登録者数	97 名	定期試験受験者数	77 名	合格者数	66 名	合格率	86%